

2024年年賀式・2023年度第3学期始業式校長あいさつ（2024. 1. 9）

おはようございます。2024年の年賀式を迎えました。皆さん元気に新年を迎えられたことを嬉しく思います。そして、高3の代表生徒から、今、新年のあいさつとして今後の図書館利用についての建設的な提言をいただきました。有難うございました。

一方で、この年明けの社会の状況を見てみると、本当に厳しい状況です。一月一日に、能登半島地震が起きました。今もなお被害の全容はわかっておらず、懸命な救助活動と支援活動が続いています。また二日には、羽田空港にて日航機と能登に支援物資を運ぼうとしていた海上保安庁の飛行機が衝突し、5名の方がなくなりました。地震で亡くなられた方も含め、心からご冥福をお祈りしたいと思います。

さらに海外に目を転じると、昨年10月に始まったパレスチナ・ガザ地区ハマスとイスラエルの紛争もやむことはありません。ちょうど2年前の年度末の終業式で、ロシアのウクライナ侵攻について触れました。ヨーロッパにおいて第2次世界大戦のときにあったような、大国による覇権主義的な侵攻がいまだにあることについて愕然とした旨お話をしましたが、同様に、このたびの中東地域での痛ましい戦火は、第二次世界大戦中のユダヤ民族に対する差別問題が、4次にわたる中東戦争やオスロ合意を経て、やっと良い方向に向かっていていると思っておりましたが、決してそんなことはなく、極めて厳しい状況になっていることに、暗澹とした気持ちになります。今この瞬間にも、同じ地球上に戦火におびえている地域があること、子どもたちや若者がいることに、心が痛くなります。こうした出来事に対し、私たちは何ができるか。そして皆さんは何ができるのか。大きな問いだと思います。

その話はのちほど触れたいと思いますが、まずはその前に、昨年の11月12月にかけて、武蔵生が、高3から中1にいたるまで、多方面で活躍をしましたので、それを紹介していきたいと思います。

まず、高校3年生。2023日本倫理哲学グランプリにおいて、全国125編の応募の中から、選考の結果、最優秀賞1名にあたる金賞を受賞しました。おめでとうございます。この日本倫理哲学グランプリは、人生や世界の根本的な問題を問い考えるもので、与えられた課題文に対し、原稿用紙10枚の哲学エッセイを書くものです。また、この大会は国際哲学オリンピック選考会にもつながっているそうです。結果は12月13日に発表されたばかりで、私のほうでは、申し訳ありませんが、どのような内容を書いたのかまだ分かっていませんが、とにかく素晴らしい。見事だと思います。おめでとうございます。

続いて高校2年生。11月2日から5日にかけてフランス・パリで開催された iGEM(The international Genetically Engineered Machine Competition)の世界大会で、武蔵生が代表を務める Japan United という日本の高校生23名からなるチームが、世界の応募チーム126チームのうち、ファイナリストとしての2チームに残り、最後は中国チームを破って見事優勝しました。おめでとうございます。

これは少し説明が必要ですね。この大会は、合成生物学分野の研究アイデアや成果を世界各国の学生が競うもので、大学院生部門、大学生部門、高校生部門があるそうです。日本のチームが優勝するのは、すべての部門で初めての快挙とのこと。

今回優勝した日本のチームは、認知症・うつ病を念頭に「抗うつ成分の生産」がアヤメ科の花であるサフランから抽出できるのではという仮説のもと、大学の先生方の支援を受けながら1年あまり、試行錯誤した研究成果が認められました。

素晴らしいと思います。まさに日本には今「イノベーション」が求められていると言われますが、高校生の段階で学校の枠を越えて実現したことは賞賛に値すると思います。このことは、校長散歩にも取り上げています。パリでのプレゼンの様子や英語での審査員との質疑応答の様子、たどたどしくてもチーム力で乗り越えている様子などもリンクをはってありますので、興味のある人はぜひ見るとよいと思います。おめでとうございます。

続いて高校1年生のチームです。さる11月12日に行なわれた第13回科学の甲子園東京都大会で参加45位中第7位の成績を収め入賞、さらに化学領域の筆記試験では、見事第1位の成績を収めました。おめでとうございます。この大会は、物理、化学、生物、地学、情報、数学の筆記競技と実技競技からなる大会ですが、多くのチームが高2生主体の編成であるのに対し、今回武蔵は高1のチームで見事な成績を収めました。ぜひ来年度もがんばってほしいと思います。ただ、ひょっとすると後輩諸君も出場をねらっているかもしれません。全体のレベルがアップしていくことは素晴らしいと思います。近い将来、ぜひ武蔵から都大会優勝、全国大会出場の声が生まれてくることも期待しています。おめでとうございます。

さて、科学分野の活躍が続きます。今度は下にぐっと飛んで中学1年生。中1生です。筑波大学が主催する第18回朝永振一郎記念「科学の芽」賞の中学生部門において、応募1195件の中から、見事、最優秀である金賞7名の一人に選ばれました。おめでとうございます。

朝永振一郎博士を皆さん知っていますか。湯川秀樹博士についての日本の2番目のノーベル賞受賞者です。その朝永振一郎博士にちなんで「科学の芽」賞は歴史のある賞ですが、今回のテーマは「エノキワタアブラムシにおけるワタの復活条件について」でした。審査講評を見ると、ワックス性のワタを作るアブラムシが、どのような条件でワタを作るのかが実によく調べられ分析されていると高い評価を得ていました。まだ中学1年生。自

分の興味をどんどん深掘りして行ってほしいと思います。おめでとうございます。

他にも私のほうも知らないこともあるかもしれませんが、部活動をはじめ様々な分野で、皆さんは才能を発揮しています。好奇心をもって、そしてチャンレンジ精神をもって「何かをやってみよう」という気持ちがとても大事だと思います。ぜひ新しい年も、武蔵生の活躍を楽しみにしています。おめでとうございます。

さて、冒頭のお話に戻ります。ガザの問題にしても、ウクライナの問題にしても、今この瞬間で起きていることに対し、君たち自身が何ができるのか。

この問題に関して、昨年末、グーグルクラスルームで皆さんにも呼びかけましたが、年末の12月21日、国連特別セミナーと称して、インド出身で長く外交官として国連に務められてきたDR.Ramu Damodaran（ラム ダモダラン）さんとのZoomによるセッションが行なわれました。中1から高3の11名の武蔵生が参加し、今の「何ができるか」という質問も含め、鋭くも本質をついた質問をしてくれました。まさに、そのセミナーの問いは「国際紛争をどう解決するか」ということだったのですが、その中でRamuさんが、たびたび使っていた言葉が私は印象的でした。それはHuman Dignityという言葉です。

Human Dignity、日本語に訳すと何といいますか？

人間の尊厳です。ラムさんは、国を越えて、Human Dignity 人間の尊厳が追究できるかが、まさに国連に課せられていることだとお話されていました。

人間の尊厳って何でしょう。辞書を引くと、尊厳とは尊く厳かで、犯してはならないものとあります。人としての生命、最低限の生きる権利というものがそれにあたると思います。

今、紛争状態にある国は、お互いに正義を掲げる一方で、率直に言って人間の尊厳は踏みにじられていると思います。

私は、誰も好き好んで人間の尊厳を踏みにじろうとしている人はいないと思います。そのように至ってしまった歴史の積み重ねや社会のありようはしっかりと冷静に分析し、どうしたら人間の尊厳を損ねない社会やシステムができるのかを考えていくことが重要だと思います。ただ、私たち大人世代はそれができていないのですから、申し分けありませんが、それは皆さん若い世代が「新しい発想」からすべきこと、できることだと私は思います。

でも一方で、どんな社会であっても、どんなシステムであっても、人間が人間である以

上、つまり不完全な状態である以上、よっぽど自覚しておかないと、人間の根本のところ
で、いとも簡単に人間の尊厳を失わせる魔物が人間の中に潜んでいるのではないかと私は
思うのです。

私は皆さんに、「人権感覚を磨け」ということをよく言ってきました。私の定義でいう
と、人権感覚とは、「これを言っちゃおしまいだよ、これをやっちゃだめだよ」というレ
ッドラインですね。紛争地域では、そのレッドラインは残念ながらすでに大きく越えてい
ますが、我々の日常にもその種が潜んでいて、その延長上に国際紛争があるように思うの
です。

皆さんが日々の日常の中で、人権感覚を磨いているか、Human Dignity を実現できて
いるか、それもまた皆さんができることだと思います。

ぜひ、武蔵の日常の中で、人権感覚を磨き、human Dignity を実現して行ってほしいと
期待しています。それが、この国際紛争を前に、皆さんができること、考えなければなら
ないことの一つだと思います。

最後に一つ情報提供です。

3学期の終わり、特別授業期間中の午後、今話題の生成 AI、Chat GPT に関する講演会
を実施します。話してくれる人は松原仁さん。武蔵の51期の卒業生で、この分野の本当
にトップランナーです。現在東京大学の次世代知能科学研究センター教授で、鉄腕アトム
に憧れてこの研究の世界に入った方です。時期が来たら希望者を募ります。視聴覚室で行
なう予定ですが、人数が多ければ他の場所も考えたいと思っています。

それでは、3学期が実りの多い月日になるように願っています。特に高3生。がんばっ
てください。応援しています！ご清聴いただき有難うございました。